

第104回 薬剤師国家試験問題検討委員会「実務」部会報告書

令和元年5月31日

日時 令和元年5月18日(土) 13:00~17:00

場所 AP品川

出席者

私立大学	56校	82名
国公立大学	17校	18名
計	73校	100名

委員長名	杉浦宗敏
所属大学名	東京薬科大学

1. 総合評価

全体として妥当な問題が多く、平易な問題から難易度の高い問題とバランスよく出題されていた。複合問題は、「代表的な8疾患」を題材とした臨床能力を問う内容が多く、実務実習で学んだ知識や経験を活用して解くことが重視されており、実務実習の重要性が改めて確認できる内容であった。実務分野の性格上すべての分野の統合問題となるので、「他分野の問題」とのすみ分けが困難な場合も見受けられた。問題設定が実際の臨床現場とは乖離し、不自然な場合も散見されたが、しっかりと考えさせる良問が多く、全体的には概ね薬剤師国家試験としては適切な問題であった。

2. 各項目の評価

1) 誤りがあると判断された問題

問90：問題文の「クレアチニンキナーゼ」は、「クレアチンキナーゼ」の誤りである。

問258：間接的という言葉の意図も不明であり、かつ正確に出題意図通りに解釈したとしても複数の回答が考えられる不適切な設問である。

問334：ワルファリンとの併用注意にミコナゾールがあるので、選択肢1の「水虫のぬり薬」も確認が必要であり、正解とすべきである。

2) 問題の観点から不適切である問題

問208：薬学部で教える内容として問題はないが、DAPTは途中でどちらかを終了するのが一般的である。そのため、永続的に見える表現ではなく明確に術後しばらくのような設定であることが望ましい。

問210：回答に支障はないが、ガイドラインでは喘息の程度に関わらず短時間作用性 β_2 刺激薬が必要となるので、実際の処方としては現実性に乏しい。

問216：薬剤師国家試験で問う問題としては極めて希少な症例であり、難易度の高さが不適切であると考えられる。パロキセチンによるSIADHはスピロノラクトンによる高K血症と同レベルの有害事象ではない。難易度には十分な配慮が必要である。

問230：レボフロキサシンは添付文書上「妊婦禁忌」であるため、リード文に妊娠の有無の記載を入れた方がよい。サルモネラに対して軽症・中等症では対処療法が行われ、重症の場合に薬物療法が考慮される。リード文から重症であるとは読み取れない。

問232：薬剤師国家試験問題としては詳細な知識を問う問題であり、難易度が高いと考えられる。

問239：小学生の大麻所持という設定は、特異な例である。

問 243 : この処方薬 5 種から、患者がどのような疾患を罹患しているのか読み取れない。正答するのに影響はないが、症例として成り立つ問題設定が望ましい。

問 252 : 用量に関しては、ガイドラインや一般的な使い方からは多いと判断できるのは事実であるが、添付文書用量内であれば可と考えてよいのではないか。トルバプタンの用量が多く、追加と考えるにいくかもしれない。ただ、心不全に伴う浮腫の治療の一般的な順序からはトルバプタンが追加されたことは判断できる。

問題設定が不自然なのは否定できない。

問 254 : HER(1+) をノーヒントで陰性と判断するのは学生にとっては極めて困難である。これが混乱を招いた可能性があり、改善が必要である。どの程度までの検査値を常識とするかは国家試験全体を通して統一すべきである。乳がんのバイオマーカーの有用性を考慮すれば HER(1+) の意味は知っているべきとの意見もあった。

問 256 : 三環系抗うつ薬が初回ならば問題だが、SSRI などからのシフトであれば有り得る。前提条件をリード文に加える必要がある。

問 262 : 各診療科ガイドラインの記載に基づいた出題であり、ガイドラインを把握していることが求められている。薬剤師国家試験に出題する問題としては難易度が高すぎると思われる。

問 274 : 臨床現場は優先度の高いものから実施するので、最も優先度の低いものを選ばせるのは適切ではないと思われる。

問 281 : 褥瘡に用いる外用剤の使い分けまで学んでいない場合があり、薬剤師国家試験としては若干難易度が高いと思われる。

問 291 : テオフィリンについて、現時点での治療ガイドラインの現状に合わせた設問の設定が必要である。

問 293 : 図中に $400 \mu\text{g}$ 製剤は未承認という記載があるが、未承認薬を薬剤師国家試験に取り上げる必要があるか、検討が必要である。

問 302 : リード文がなくても解答できる。他でも散見されるので、検討いただきたい。

問 308 : 必ずしも最新の治療が出てくるとは限らず、DPC との設定でもあり、PPI+CAM が処方される問題でよい。

問 310 : 実臨床ではベストな選択とは言い難いが、選択肢の中から選ぶとすれば回答できる問題である。

問 312 : 製薬会社が作成した手順書に関する問題であるが、薬害の歴史を振り返るということにおいては重要な問題である。ただ、多発性骨髄腫を扱わないような病院実習に行った学生には不利になる可能性がある。

問 326 : 発熱性好中球減少症 (FN) 症例であるが、情報が少なく外来か入院かの重症度を MASCC スコアで判断できない。FN のガイドラインの記載を学生が把握するにはやや無理がある。

問 333 : バイオ後続品の選定に関する問題なので、ロット間差ではなく「先発品」と「後発品」の違いを問うべきである。実務の問題としては適切ではない。生物系の問題なのではないか。

問 338 : 製剤の違いを問うのであれば薬剤の問題なのではないか。

問 341 : 2 剤が降圧剤のみであるのか、他剤も含めた 2 剤であるのかがグラフのみからは不明である。グラフを読み取り降圧剤を 1 剤とすることを回答させる出題意図と思われるが、学生にわかりやすくするために、選択肢 1 の表現を「アムロジピンまたはカンデサルタンのいずれかを中止する」にした方がよい。

問 342 : 計算問題としては成り立つが、薬剤変更の状況や患者の設定に無理がある。

3) 問題・選択肢の表現が不適切である問題

問 87 : 問題文の表現は「鑑査」→「監査」で統一すべきである。

問 196 : 選択肢 3 の「血中濃度がトラフに近い」は「採血タイミングがトラフに近い」のほうが表現としてはよい。

問 198 : 回答に支障はないと思われるが、選択肢 1 の「病態の進行」とあり、病態を判断できる記述がリード文にない。

問 200 : リード文の内容に照らしてみると、選択肢の内容が単純すぎる。リード文の内容をさらに分析して回答する設問でもよい。

問 204 : リード文は慢性 GVHD の症例であるにも関わらず選択肢 2 は急性 GVHD に関する内容であり、かつそれが正解になっている。リード文と選択肢に乖離があり、改善が必要と思われる。

ガイドラインでは一次治療が低用量ステロイド、二次治療が大量療法である。設問からは一次か二次かが読み取れず、一次と判断された場合に適切な選択肢がない。

問 206 : 回答に無関係なリード文が含まれている。余計な誤解を生むので、避けた方がよいと思われる。

問 208 : 選択肢 2 は、臨床現場で薬剤師から医師に提案する内容としては不自然である。

回答上問題はないが、リード文の設定が現実性に乏しい。

問 210 : 選択肢 1 の表現が不正確（吸入薬でも一定頻度のムーンフェイスが起こる可能性ありと解釈されやすい）なので、改めた方がよい。

選択肢 4 と 5 は本質的な内容でなく安易すぎる。

問 214 : リード文に「薬局の薬剤師から勧められた」など、服用している市販の漢方薬が妥当であることを保証する文言があることが望ましい。

問 216 : 医薬品名称の表記は全体を通して統一すべきである。パロキセチン錠という簡略なものではなくパロキセチン塩酸塩錠と表記すべきである。

問 226 : 選択肢 1 の「軽度」の定義が曖昧である。実際には軽度でも服用を中止する可能性がある。

問 232 : 選択肢 2 の「～小学校等に行っては行けません」の表現が完全な誤りか疑問である。学校生活や家庭の状況によっては、薬剤師の判断で登校させないこともあり得るのではないか。

問 235 : ソホスブビルとリバビリンには、重度の腎機能障害を有する症例以外にも投与禁忌症例があるため、もう少し詳細な患者情報をリード文に記載した方がよい。

問 236 : 基本的かつ重要な設問だが、リード文とは無関係に単独でも成立する設問となっている。

問 244 : 一酸化炭素中毒の症状としてめまいが起きるので、選択肢 1 も「正答」とする可能性もある。

問 246 : 治療継続という表現がされているため、一時的な症状改善のためだけに投与すべき薬剤を正答として選択してよいか、非常に迷いやすい。薬理学の問題としては適切かもしれないが、問題文の表現は誤解を招かないように注意する必要がある。

問 248 : 一般名での表記ルールについて全体で統一すべきである。

問 250 : 不正解となる選択肢を落とす理由がリード文に与えられてはいるが、読み解くのが容易でなく難易度が高い。

問 254 : 検査データの略語が多すぎる。

問 258 : 間接的に生じる、という表現は意味が分かりにくい。

問 260 : 1 年前にステントが入っており、PPI を使っていないのが不自然である。疑義照会をするシチュエーションでの設問にする方が自然である。

問 278 : 現在は DEHP フリーの PVC 製輸液セットも販売されており、選択肢 1 は必ずしも正解とは言えない。

問 284 : この患者の代替薬としては、最も適切なものとして選択肢以外の薬剤・剤形の可能性も考えられるため、設問に「下記の選択肢から選ぶとしたら」、「この病院には以下の薬剤しかない」などを追加した方がよい。

問 308 : 添付文書に重きをおいているという考えの下では、必ずしも適切でないとは言えないが、薬学的な立場からは、もう少し明確な選択肢とすべきである。

問 325 : 準備しておくことで「一任」という表現が適切かは疑問だが、問題を解答する上では、問題はない。

問 327 : mEq/mL よりも、mEq/L が一般的である。

問 330 : 問題間の表記を統一すべきである (Stage、ステージ)。設問中の表現を「薬学的関与」→「薬学的管理」に統一すべきである。

問 334 : 「ワルファリン K」→「ワルファリンカリウム」のカタカナに訂正すべきである。

「薬物相互作用」→「相互作用」に訂正すべきである。

問 338 : 選択肢が「患者さんが違いを気にしていた」ことについての回答ではない。患者さんへの指導であれば成分や味の違いなどの説明が必要である。

問 339 : 医師に照会すべき内容が「・・・の発症」となっている意味がわかりにくい。選択肢が実際に疑義照会するような内容ではないので考慮されたい。

問 341 : 文字の誤り「大腿骨頸部」→「大腿骨頸部」。不等記号を日本で使用されているタイプにする必要がある。リード文の中の「薬剤師が医師に伝えた次の内容のうち」を削除すべきである。

問 343 : リード文から 1 日 1 回投与なので、「タクロリムスカプセル」→「タクロリムス徐放性カプセル」と明記した方がよい。

問 345 : 薬剤名を正式名称にすべき。アレンドロン酸錠、ロスバスタチン錠はそれぞれナトリウム水和物、カルシウム塩の記載が必要である。

4) 「複合性が不適切な問題」

問 236 : 本問を間違えると次問も間違える。

問 258 : 表現が拙いため、複合性が分かりにくい。

5) 「授業で触れていない問題」

別紙 1 のとおり。

問 216 : 希少な事例であり、教えていない大学が多い。

問 241 : 放射性医薬品は、検査薬はかつて良く出題されているが、がんに対する治療用の医薬品としては難易度が高く、教えていない大学が多い。

問 254 : HER2(1+) については教えていないという大学も多かったが、重要なバイオマーカーでもあり、今後は教えていく必要がある。

問 258 : 免疫関連副作用としては教えているが、直接的・間接的といった表現は不正確なため、教えていない大学が多い。

問 260：重要な内容ではあるが、この設問の正答を導けるほど詳しく教えられていない大学が多いと思われる。

問 276：吸入薬のデバイスは実務実習で実物を見ながら理解する必要があり、実習施設によって教える内容が異なる可能性がある。

問 281：褥瘡対策における外用薬の使い分けについては大学では教えていない場合がある。

問 333：授業で教えていない大学も多い。

6) 「部会としての意見」欄に記載された事項

①薬剤師国家試験として高く評価された問題

問 222：本設問はまず VB6 とレボドパの相互作用の観点で選択肢 1, 5 を除外し、かつ症状が風邪でなく眼精疲労である点から一般風邪薬である選択肢 2 を除外させる、非常によく練られた問題であると思われる。

問 266：薬剤や薬理との組み合わせであり、薬剤師に求められる基本的資質を総合的に問う（PK の特性から患者に適した薬剤を選択する）良い設問だと思われる。ただし、薬剤の選択は、薬物動態だけではなく作用機序、ガイドラインの推奨度などを総合的に考慮した結果提案されるものなので、「薬物動態の観点から考えると」という設問にした方がよい。

問 341：データを読み取り実臨床に活かしていく新しいタイプの問題である。

②その他

問 196：FPIA は 5 年以上前から TDM の現場で用いられなくなっており、出題することは避けたほうがよい。

問 210：リード文のシチュエーションをより現実的に即したものにしよう配慮すべき。選択肢の表現も注意が必要と考えられる。

問 258：免疫関連有害事象と表現せず、直接的、間接的というあいまいな表現を用いているため、非常に出題意図が分かりにくい。かつ免疫関連副作用に着目させておけば問 259 との複合性も保てたと思われる。

問 272：選択肢 5 は明らかに誤答であり他の薬品などに変更した方がよいのではないかとの意見があったが、この選択肢がいわゆる「禁忌肢」であったのであればこのままでよい。コメントの難しい問題と思われる。

問 312：授業で教えていない大学は少ないようなので、サリドマイドを問題とすることはよいと思われる。ただし、血液内科領域は専門性が高い領域であるため、出題の際には十分な配慮が必要である。特殊な管理が必要な薬剤として実務実習で触れるか否かに関わらず認識すべきであるものは問題にしてもよいと思われる。

7) その他特記事項

- ・アンケートの選択肢が大学の講義で教えたかどうかには絞られているので答えにくい。実務系の問題は実務実習で学ぶ内容が多く、授業においてピンポイントで扱うことは難しい場合もあるので、アンケートの選択肢をご検討いただきたい。

- ・問題について検討する際、正答率がわかれば、設問の表現や選択肢など多くの観点からさらに深い考察ができると思う。正答率の低いものだけでも事前に教えていただきたい。

・禁忌肢のある問題ではないかと思われる設問があった(問 272)。この場合、「問題に誤りがある」とすべきか「このままでよい」とすべきかコメントの表現が難しいため、禁忌肢がある問題を教えていただきたい。

・「がん」や「癌」、一般名の塩の「Na」や「ナトリウム」などの表記の方法に一定のルールが公表されているなら教えて頂きたい。

・複合性については、連問の関連性が熟慮される問題が多くなったが、作問意図から後問を解答する上でヒントとなるような前問を敢えて作成している場合も散見された。作問者によって複合性に対する解釈が異なる印象があり、明確な方向性を示していただきたい。

3. 各問題の評価

別紙1のとおり

別紙 1 第104回薬剤師国家試験問題「実務」部会 評価表

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
必須 問題	81	0	73	0	1	72	0	2	69	2	2	68	3
	82	0	73	0	1	70	2	0	71	2	3	70	0
	83	1	72	0	1	71	1	3	69	1	7	62	4
	84	0	72	1	2	69	2	1	68	4	12	52	9
	85	1	72	0	0	71	2	1	71	1	3	69	1
	86	0	73	0	4	66	3	2	67	4	5	63	5
	87	1	70	2	4	64	5	7	60	6	3	70	0
	88	0	73	0	1	72	0	1	72	0	1	68	4
	89	1	72	0	0	73	0	0	73	0	1	72	0
	90	26	47	1	1	72	0	9	63	1	2	70	1

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
複 合 問 題	196	0	72	1	1	72	0	3	69	1	0	68	5	1	65	7
	198	0	73	0	2	69	2	2	69	2	1	69	3	2	68	3
	200	0	72	1	1	69	3	0	71	2	1	70	2	3	70	0
	202	1	72	0	0	73	0	2	69	2	0	69	4	3	66	4
	204	1	72	0	2	68	3	3	68	2	1	69	3	4	57	12
	206	0	73	0	0	70	3	4	68	1	3	67	3	3	69	1
	208	0	73	0	1	68	4	5	64	4	2	65	6	5	59	9
	210	0	73	0	1	72	0	3	69	1	1	67	5	1	70	2
	212	0	73	0	0	72	1	4	68	1	0	69	4	2	64	7
	214	0	72	1	0	71	2	1	70	2	0	71	2	2	65	6
	216	0	71	2	3	65	5	1	70	2	0	71	2	11	47	15
	218	0	73	0	0	72	1	2	71	0	0	73	0	3	60	10
	221	0	72	1	2	70	1	4	68	1	1	70	2	1	63	9
	222	0	72	1	2	68	3	0	70	3	0	70	3	10	50	13
	225	0	73	0	0	73	0	0	72	1	0	72	1	3	65	5
	226	0	73	0	1	72	0	1	70	2	0	73	0	1	72	0
	229	0	73	0	0	71	2	0	73	0	1	70	2	3	61	9
	230	0	73	0	2	69	2	4	69	0	1	71	1	4	62	7
	232	0	72	1	2	66	5	2	70	1	1	70	2	22	34	17
	235	0	73	0	0	69	4	1	71	1	0	70	3	5	64	4
	236	0	73	0	0	71	2	1	71	1	1	72	0	2	66	5
	239	0	73	0	2	71	0	1	72	0	1	69	3	4	61	8
	241	0	72	1	0	68	5	1	70	2	0	68	5	9	51	13
	243	0	73	0	1	71	1	0	72	1	0	70	3	2	69	2
	244	1	72	0	0	71	2	1	72	0	0	71	2	5	58	10
	246	0	72	0	0	68	4	2	69	1	1	71	0	6	59	7
	248	0	70	2	0	71	1	0	70	2	1	71	0	4	66	2
	250	0	72	0	1	70	1	2	70	0	1	70	1	5	58	9
252	0	69	3	3	66	3	3	67	2	1	70	1	4	64	4	
254	0	71	1	1	68	3	3	69	0	1	71	0	4	60	8	
256	0	71	1	1	71	0	1	69	2	1	71	0	2	66	4	
258	9	56	7	9	53	10	18	45	9	1	69	2	10	44	18	

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
複 合 問 題	260	0	72	0	2	69	1	2	68	2	1	70	1	3	66	3
	262	0	71	1	2	61	9	1	70	1	0	72	0	10	45	17
	266	0	72	0	1	69	2	1	70	1	1	71	0	3	66	3
	267	0	71	0	2	68	1	0	71	0	3	66	2	2	68	1
	268	0	71	0	0	71	0	1	69	1	0	71	0	2	68	1
	270	0	71	0	2	69	0	1	68	2	0	71	0	1	69	1
	272	0	71	0	1	68	2	2	68	1	0	70	1	6	56	9
	274	0	70	1	1	69	1	1	68	2	0	70	1	2	63	6
	276	0	70	1	0	70	1	0	70	1	0	70	1	2	65	4
	278	1	70	0	2	68	1	2	67	2	0	70	1	6	56	9
	281	0	71	0	0	67	4	0	70	1	0	68	3	6	52	13
	282	0	71	0	0	68	3	0	69	2	0	71	0	8	53	10
	284	0	70	1	1	67	3	4	63	4	0	71	0	1	65	5
	287	1	71	1	1	70	2	5	66	2	1	70	2	6	55	12
	289	0	73	0	0	72	1	1	70	2	0	70	3	7	55	11
	291	0	73	0	1	71	1	1	69	3	0	72	1	2	68	3
	293	0	72	1	2	70	1	3	68	2	0	68	5	10	54	9
	295	0	72	1	0	73	0	1	70	2	0	72	1	3	59	11
	297	0	73	0	0	72	1	0	73	0	0	72	1	1	62	10
	299	0	73	0	2	70	1	1	71	1	2	69	2	2	69	2
	301	0	73	0	1	71	1	1	71	1	1	71	1	9	52	12
	302	0	73	0	0	72	1	0	72	1	2	69	2	1	68	4
	304	0	73	0	2	69	2	2	68	3	0	73	0	5	61	7
	306	1	70	2	2	70	1	3	66	4	3	68	2	2	65	6
	308	1	72	0	1	69	3	2	69	2	7	63	3	5	64	4
310	0	73	0	0	72	1	3	69	1	1	67	5	3	67	3	
312	0	72	1	2	70	1	2	70	1	1	71	1	2	61	10	
314	0	73	0	0	73	0	1	71	1	0	71	2	1	69	3	
316	0	73	0	0	73	0	1	71	1	0	72	1	4	67	2	
319	0	73	0	2	69	2	0	71	2	2	66	5	4	64	5	
320	0	73	0	0	73	0	0	72	1	2	69	2	2	71	0	
323	0	73	0	1	72	0	1	71	1	1	70	2	3	64	6	
325	0	73	0	0	73	0	3	68	2	0	71	2	1	65	7	

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
薬学 実践 問題	326	3	66	3	7	63	2	5	65	2	8	58	6
	327	0	71	1	0	72	0	0	72	0	3	66	3
	328	0	72	0	0	72	0	1	69	2	1	69	2
	329	0	72	0	0	71	1	0	71	1	4	63	5
	330	0	72	0	0	71	1	1	69	2	4	64	4
	331	0	72	0	0	72	0	1	71	0	1	69	2
	332	0	72	0	0	72	0	1	71	0	1	70	1
	333	0	70	2	3	66	3	4	66	2	15	45	12
	334	10	59	3	6	65	1	16	50	6	2	61	9
	335	0	72	0	1	70	1	0	71	1	3	62	7

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
薬学 実践 問題	336	0	72	0	0	72	0	1	70	1	2	64	6
	337	0	72	0	0	72	0	0	72	0	2	70	0
	338	0	68	4	7	53	12	3	61	8	18	34	20
	339	0	70	2	0	70	2	2	66	4	4	62	6
	340	1	71	0	1	71	0	0	71	1	3	67	2
	341	1	71	0	1	68	3	5	63	4	4	52	16
	342	0	71	1	3	69	0	1	71	0	7	60	5
	343	0	71	1	1	70	1	5	65	2	3	58	11
	344	1	71	0	0	68	4	2	63	7	6	55	11
	345	0	72	0	1	68	3	3	65	4	6	55	11

(注)数字は回答大学数である。